

別記様式第2号（その1の2）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン トウキョウイカダイガク 学校法人 東京医科大学									
フリガナ大学の名称	トウキョウイカダイガクダイガクイン 東京医科大学大学院									
大学の位置	東京都新宿区新宿6丁目1番1号									
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、建学の精神である自主自学と校是である正義・友愛・奉仕に則り、医学及び看護学の理論と応用を教授研究することを目的とする。									
新設研究科等の目的	建学の精神「自主自学」と教育ビジョン「社会に出てからも永く活躍できる人材の育成」に基づき、基礎教育で身につけた能力を更に深化させ、高度な看護実践能力および基礎的な教育研究能力を備え、実践現場から看護の質向上に貢献する人材、将来教育研究者として看護学の発展に貢献できる人材を養成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部看護学科 14条特例の実施
	看護学研究科 看護学専攻 計	年	人	年次人	人	修士 (看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	令和7年4月 第1学年	東京都新宿区新宿6丁目1番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				高度実践看護師 コースの修了単 位数は44単位
	看護学研究科看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
	看護学研究科看護学専攻	33 科目	20 科目	10 科目	63 科目					
研究科等の名称	専任教員						助手	専任教員以外の 教員 (助手を除く)		
	教授	准教授	講師	助教	計					
新設	看護学研究科看護学専攻（修士課程）	7人 (7)	3人 (3)	4人 (4)	1人 (1)	15人 (15)	0	59 (59)		
	計	7 (7)	3 (3)	4 (4)	1 (1)	15 (15)	0	59 (59)		
既設	大学院医学研究科（修士課程）	24 (24)	19 (19)	21 (21)	3 (3)	67 (67)	0	4 (4)		
	大学院医学研究科（博士課程）	101 (101)	70 (70)	122 (122)	0 (0)	293 (293)	0	10 (10)		
分	計	125 (125)	89 (89)	143 (143)	3 (3)	360 (360)	0	— (—)		
合計		131 (131)	93 (93)	147 (147)	4 (4)	375 (375)	0	— (—)		
職種	専属		その他			計				
事務職員	354 (354)		369 (369)			723 (723)				
技術職員	2,929 (2,929)		188 (188)			3,117 (3,117)				
図書館職員	12 (12)		2 (2)			14 (14)				
その他の職員	63 (63)		144 (144)			207 (207)				
指導補助者	0 (0)		0 (0)			0 (0)				
計	3,358 (3,358)		703 (703)			4,061 (4,061)				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎敷地	47,305 m ²	— m ²	— m ²		47,305 m ²	八王子医療セン ター一部借地 借地面積： 12,094m ² 借用期間：30年			
	その他	188,348 m ²	— m ²	— m ²		188,348 m ²				
合計	235,653 m ²	— m ²	— m ²		235,653 m ²					
校舎	区分	専用	共用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎	54,965.07 m ² (54,965.07m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)		54,965.07 m ² (54,965.07m ²)				

講義室等・新設研究科等の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	実験実習室には、シュミレーションルームを含む。			
		17 室	12 室	14 室	15 室				
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点		
	看護学研究科	282,128 [98,310] (282,128 [98,310])	6,447 [137] (6,447 [137])	15,239 [8,767] (15,239 [8,767])	7,496 [5,936] (15,239 [8,767])	22,878 (22878)	45 (45)		
	計	282,128 [98,310] (282,128 [98,310])	6,447 [137] (6,447 [137])	15,239 [8,767] (15,239 [8,767])	7,496 [5,936] (15,239 [8,767])	22,878 (22878)	45 (45)		
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
	教員1人当り研究費等		340千円	340千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	共同研究費等		4,600千円	4,600千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	図書購入費	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	3,316千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円		
1~2通			第1年次 1,300千円	第2年次 1,000千円	第3年次 — 千円	第4年次 — 千円	第5年次 — 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入 等							
既設大学等の状況	大学等の名称	東京医科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	医学部	年	人	年次人	人		倍		
	医学科	6	122	—	721	学士(医学)	1.02	昭和27年	東京都新宿区新宿6丁目1番1号 令和5年度入学定員増(1人) / 令和4年度入学定員増(2人) / 令和2年度入学定員減(△1人)
	看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.09	平成25年	
	大学院医学研究科						0.97		
	医科学専攻	2	#	—	#	修士(医科学)	1.00	平成25年	
	形態系専攻	4	#	—	#	博士(医学)	0.05	昭和32年	
	機能系専攻	4	#	—	#	博士(医学)	0.08	昭和32年	
	社会医学系専攻	4	4	—	#	博士(医学)	0.06	昭和32年	
内科系専攻	4	#	—	#	博士(医学)	0.23	昭和32年		
外科系専攻	4	#	—	#	博士(医学)	0.18	昭和32年		
社会人大学院・臨床研究系専攻	4	#	—	#	博士(医学)	2.01	平成20年		
社会人大学院・研究系専攻	4	4	—	#	博士(医学)	1.81	平成20年		
附属施設の概要	名称	東京医科大学病院							
	目的	診療及び臨床実習							
	所在地	東京都新宿区西新宿6-7-1							
	設置年月	昭和6年5月							
規模等	土地 21,936㎡ 建物 98,099㎡ 病床数 904床								
名称	東京医科大学八王子医療セン								
目的	診療及び臨床実習								
所在地	東京都八王子市館町1163								
設置年月	昭和55年4月								
規模等	土地 95,249㎡ 建物 51,450㎡ 病床数 610床								
名称	東京医科大学茨城医療センター								
目的	診療及び臨床実習								
所在地	茨城県稲敷郡阿見町中央3-20-1								
設置年月	昭和24年10月								
規模等	土地 95,579㎡ 建物 62,038㎡ 病床数 501床								
名称	東京医科大学医学総合研究所								
目的	医学研究								
所在地	東京都新宿区新宿6-1-1								
設置年月	平成22年1月								
規模等	土地 15,833㎡ 建物 1,169㎡								

学校法人東京医科大学 設置認可等に関する組織の移行表

大学院研究科の設置

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
東京医科大学				東京医科大学				
医学部				医学部				
医学科	123	0	724	医学科	<u>120</u>	0	<u>720</u>	定員変更 (△3)
看護学科	80	0	320	看護学科	80	0	320	
<hr/>				<hr/>				
計	203		1,044	計	<u>200</u>		<u>1,040</u>	
東京医科大学大学院				東京医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻 (M)	10	0	20	医科学専攻 (M)	10	0	20	
形態系専攻 (D)	10	0	40	形態系専攻 (D)	10	0	40	
機能系専攻 (D)	10	0	40	機能系専攻 (D)	10	0	40	
社会医学系専攻 (D)	4	0	16	社会医学系専攻 (D)	4	0	16	
内科系専攻 (D)	10	0	40	内科系専攻 (D)	10	0	40	
外科系専攻 (D)	10	0	40	外科系専攻 (D)	10	0	40	
社会人・臨床研究系専攻 (D)	20	0	80	社会人・臨床研究系専攻 (D)	20	0	80	
社会人・研究系専攻 (D)	4	0	16	社会人・研究系専攻 (D)	4	0	16	
<hr/>				<hr/>				
計	78		292	計	<u>84</u>		<u>304</u>	
東京医科大学 霞ヶ浦看護専門学校				東京医科大学 霞ヶ浦看護専門学校				
専門課程				専門課程				
看護学科	40	0	120	看護学科	40	0	120	
<hr/>				<hr/>				
計	40		120	計	40		120	
<hr/>				<hr/>				
				看護学研究科 看護学専攻 (M)				研究科設置 (認可申請)
				<u>6</u>	0	<u>12</u>		

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
(医学部看護学科等)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く
人間と自然科学	生命科学	1前	○	2			○								3	オムニバス方式
	生体の化学	1前			2		○								3	オムニバス方式
	情報科学	1前		2			○								1	
	情報リテラシー入門	1前			1			○							1	
	生命と地球環境	1後			1		○								3	オムニバス方式
	医療ための物理学	1後			1		○								1	
人間と文化	心理学	1前		2			○								1	
	文学	1前			2		○								1	
	生命倫理	1前・後			2		○								1	
	哲学	1前・後			2		○								1	
	発達心理学	1後		1			○								1	
	多文化共生論	1後			2		○								1	
	人間理解のための文章購読	1前			2		○								1	
	教育学入門	2前			2		○								1	
	健康とスポーツ*	2後			2			○							8	オムニバス方式・一部共同
一般教育科目	法学入門	1前		2			○								1	
	医療人類学	1前・後			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	
	国際関係論	1前			1		○								1	
	ジェンダー論	1後			2		○								1	
	政治・経済学	2前			1		○								1	
	医療と保健の歴史	1前			2		○									
	探究の技法	1前	○	1				○		1						
アカデミックスキルII(基礎ゼミ)	1後	○	1				○		1	1	2	3				
統計学	1後		2			○								1		
人間と言語	英語I(基礎)	1前	○	2			○								2	
	スペイン語	1前			2		○								1	
	韓国語	1前			2		○								1	
	中国語	1前			2		○								1	
	英語II(コミュニケーション)	1後	○	1				○							2	
	フランス語	1後			2		○								1	
	ドイツ語	1後			2		○								1	
	英語III(医療英語)	2前	○	2			○								3	
	英語IV(エッセイライティング)	2後	○	2			○								3	
	英語V(論文購読)	4前			2		○								2	
キャリアデザイン	1通	○	1				○					1	1	12	オムニバス方式	
キャリアデザインII(発展)	2通	○	1				○		1			1	1	1	共同	
小計(37科目)	—	—	22	41	0		—		2	1	2	4		56		
専門基礎科目	形態機能学	1前	○	2			○								11	オムニバス方式
	病理学	1後	○	1			○								5	オムニバス方式
	栄養学	1後	○	1			○								1	
	生化学	2前	○	1			○								5	オムニバス方式
	微生物学	2前	○	1			○								4	オムニバス方式
	疾病と治療I(成人・老人系概論)	2前	○	1			○								8	オムニバス方式・メディア
	疾病と治療II(成人・老人系各論)	2前	○	2			○								20	オムニバス方式・メディア
	臨床心理学	2前			1		○								1	
	免疫学	2後	○	1			○								5	オムニバス方式・メディア
	薬理学	2後	○	2			○								1	
	疾病と治療III(周産期と婦人科系)	2後	○	1			○								1	
	疾病と治療IV(こども)	2後	○	1			○								8	オムニバス方式・一部共同・メディア
	遺伝学	3前			1		○								9	オムニバス方式・メディア
	補完代替療法	4後			1		○								6	オムニバス方式

環境と健康	社会福祉・社会保障	1後		2		○									1	オムニバス方式	
	医療概論	1後			1	○									12		
	公衆衛生学	2前		2		○									1		
	疫学	2後	○	2		○									5		オムニバス方式・メディア
	保健統計学*	3前			2		○								1		
小計 (19科目)		—	—	20	6	0	—			0	0	0	0	0	77		
看護の基礎	看護学概論	1前	○	2		○				1	1	1				オムニバス方式・一部共同	
	看護倫理 I (基礎)	1後	○	1		○				1		1				オムニバス方式・一部共同	
看護の対象	チーム医療論※	2後			1	○				1		2	1			オムニバス方式・一部共同	
	看護理論※	4前			1	○				1		1				オムニバス方式・一部共同	
	看護の歴史※	4前			1	○									1		
	看護倫理 II (事例分析) ※	4後			1		○			2						共同	
	看護基礎実習 I (対象理解)	1前	○	1				○		1	1	2	1			共同	
	老年基礎実習	1前	○	1				○			1		1			共同	
	看護対象論	1後	○	2		○				4	1					オムニバス方式	
	コミュニケーション論	1後	○	1		○				1		1	1			オムニバス方式・一部共同	
	地域・在宅看護論 I (対象とケアシステム)	1後	○	1		○				1		2				オムニバス方式・一部共同	
	地域・在宅看護論 II (療養生活の理解)	2前	○	1		○				1	1	1				オムニバス方式・一部共同	
在宅看護基礎実習	2前	○	2				○		1	1	1				共同		
精神保健論	2後	○	1		○				1		1	1			2	オムニバス方式	
地域・在宅看護論 III	2後	○	1		○				1		2				共同		
家族看護論※	3前			1		○			1	1	1					オムニバス方式	
看護の方法	看護技術論 I (概論)	1前	○	1		○				1	1	2				オムニバス方式・一部共同	
	看護技術論 II (日常生活援助技術)	1後	○	2			○			1	1	2	1			オムニバス方式・一部共同	
	看護技術論 III (フィジカルアセスメント)	2前	○	1			○			2		2	1			オムニバス方式・一部共同	
	在宅看護援助論 I (基礎)	2前	○	1			○			1	1	1				オムニバス方式・一部共同	
	看護技術論 IV (診療の補助技術)	2後	○	1			○			2	1	1	1			オムニバス方式・一部共同	
	看護過程と EBN	2後	○	2			○			2	1	1	1			オムニバス方式・一部共同	
	成人・老年看護学概論	2後	○	1			○			1	1					共同	
	こども看護学概論	2後	○	1			○			1	1					共同	
	母性看護学概論	2後	○	1			○			1	1					共同	
	看護基礎実習 II (対象理解と日常生活援助)	2後	○	2				○		2	1	1	1				
	成人看護学援助論 I (慢性期・緩和ケア)	3前	○	2				○		1	1	1	3			オムニバス方式・一部共同	
	成人看護学援助論 II (急性期)	3前	○	2				○		1	1	1	3			オムニバス方式・一部共同	
	老年看護学援助論	3前	○	1				○			1		1			オムニバス方式・一部共同	
	こども看護学援助論	3前	○	2				○		1	1		1			オムニバス方式・一部共同	
	母性看護学援助論	3前	○	2				○		1	1	1	1			オムニバス方式・一部共同	
	精神看護学援助論	3前	○	2				○		1		1	1			オムニバス方式・一部共同	
	在宅看護援助論 II (事例展開)	3後	○	1				○		1	1	1				オムニバス方式・一部共同	
	成人看護学実習 I (慢性的な健康問題)	3後	○	2				○		1	1	1	3			共同	
	成人看護学実習 II (周手術期)	3後	○	2				○				1	2	3		共同	
	老年看護学実習	3後	○	2				○				1		1		共同	
こども看護学実習	3後	○	2				○		1	1		1			共同		
母性看護学実習	3後	○	2				○		1	1	1	1			共同		
精神看護学実習	3後	○	2				○		1		1	1			共同		
グローバルヘルス	国際保健論	1後	○	1			○			1			1			共同	
	国際看護活動論	2前	○	1				○		1			1			共同	
	災害看護論	2前	○	2			○								1		
	災害看護援助論※	2後			1			○							5	オムニバス方式	
	国際看護フィールドワーク※	4通年			2			○		1			1			共同	
看護の統合と発展	看護システム論	2前	○	2			○								1		
	看護研究法	3前	○	2			○				6	1				オムニバス方式・一部共同・メディア	
	包括ケア実習	3後	○	2				○		1	1	1	8			共同	
	看護システムマネジメント論	4前	○	2			○			1					1	オムニバス方式・一部共同	
	統合実習	4前	○	3				○		8	7	7	10			共同	
	卒業論文	4通年	○	2				○		8	7	7	10			共同	
	看護技術論 V (技術の統合) ※	4後			1		○			1	1	2				オムニバス方式・一部共同	
生涯学習と看護の発展※	4前			1		○			7	4	1	1			オムニバス方式・一部共同		
パブリックヘルス	公衆衛生看護学概論※	3前			2		○			1		2				オムニバス方式	
	公衆衛生看護活動論※	3後			2		○			1		2				オムニバス方式・一部共同	
	公衆衛生看護活動展開論 I (基礎)	3後			2			○		1		2				オムニバス方式・一部共同	
	公衆衛生看護活動展開論 II (応用)	4前			2			○		1		2				オムニバス方式・一部共同	
	公衆衛生看護管理論※	4前			1		○			1		1				オムニバス方式・一部共同	
	公衆衛生看護学実習	4前			5			○		1		2				共同	
小計 (58科目)		—	—	68	24	0	—		8	7	7	10			11		
合計 (114科目)		—	—	110	71	0	—		8	7	7	10			144		

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
必修科目110単位、選択科目16単位以上を修得し、卒業試験に合格すること。 ※保健師国家試験受験資格希望者は、必修科目110単位、選択科目13単位以上、パブリックヘルス14単位、計137単位を修得する。			1 学年の学期区分	2期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(看護学研究科看護学専攻(修士課程))																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
共通基礎科目	看護理論特論	1前			2			○			1								
	看護倫理特論	1前			2			○			1								
	看護研究方法論Ⅰ	1前		2				○			1								
	看護研究方法論Ⅱ	1後			1			○				1							
	医療データサイエンス特論	1後			1			○								3			
	コンサルテーション特論	1後			2			○									5	オムニバス、共同(一部)	
	看護教育特論	1前		2				○			1								
	看護マネジメント特論	1前		2				○									1		
	異文化看護特論	1後			2			○			1								
	フィジカルアセスメント	1通			2				○		1						1	オムニバス、共同(一部)	
	臨床薬理学	1後			2			○			2	1					5	オムニバス、共同(一部)	
	病態生理学	1前			2			○			1	1					8	オムニバス、共同(一部)	
小計(12科目)		—	—	6	16	0		—		5	2	1	0	0	0	20			
基礎看護学領域科目	基礎看護学 分野科目	基礎看護学特論Ⅰ	1前		2			○			1	1							
		基礎看護学特論Ⅱ	1後		2			○			1	1							
		基礎看護学演習Ⅰ	2前		2				○		1	1							
		基礎看護学演習Ⅱ	2通		2				○		1	1							
		小計(4科目)	—	—	0	8	0		—		1	1	0	0	0	0	0		
こども・女性看護学領域科目	こども看護学 分野科目	こども看護学特論Ⅰ(発達理論)	1前		2			○			1	1						オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学特論Ⅱ(健康の維持・増進、回復)	1前		2			○			1								
		こども看護学特論Ⅲ(看護実践と倫理)	1前		2			○			1	1						オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学特論Ⅳ(制度・政策、調整・協働)	1後		2			○			1							オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学演習Ⅰ(包括的アセスメント)	1前		2				○		1	1					5	オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学演習Ⅱ(病態生理・診断・治療)	1前		2				○		1	1					8	オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学演習Ⅲ(多様な健康状態と生活の場)	1後		2				○		1	1						オムニバス、共同(一部)	
		こども看護学実習Ⅰ(診断・治療)	1後		2					○		1	1					2	共同
		こども看護学実習Ⅱ(高度実践/プライマリケア)	2通		4					○		1	1						共同
		こども看護学実習Ⅲ(高度実践)	2通		4					○		1	1						共同
	小計(10科目)	—	—	0	24	0		—			1	1	0	0	0	0	13		
	ウイメンズヘルス看護学 分野科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ	1前		2			○			1		1						共同
ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ		1後		2			○			1		1						共同	
ウイメンズヘルス看護学演習Ⅰ		1前		2				○		1		1						共同	
ウイメンズヘルス看護学演習Ⅱ		1後		2				○		1		1						共同	
小計(4科目)	—	—	0	8	0		—			1		1	0	0	0	0			
療養支援看護学領域科目	がん看護学 分野科目	がん看護学特論Ⅰ(がん看護学理論)	1前		2			○			2	1						オムニバス、共同(一部)	
		がん看護学特論Ⅱ(がん看護学援助論)	1前		2			○			1	1					2	オムニバス方式	
		がん看護学特論Ⅲ(がんの病態と診断治療)	1前		2			○			1	1					13	オムニバス、共同(一部)	
		がん看護学特論Ⅳ(がん薬物療法看護)	1後		2			○			1	1					2	オムニバス、共同(一部)	
		がん看護学特論Ⅴ(緩和ケア)	1後		2			○			1	1					5	オムニバス方式	
		がん看護学演習Ⅰ(エビデンス検索と活用)	1後		2				○		1	1							オムニバス、共同(一部)
		がん看護学演習Ⅱ(フィールドワーク)	1後		2				○		1	1						共同	
		がん看護学演習Ⅲ(がん看護実践)	2前		2				○		1	1							オムニバス、共同(一部)
		がん看護学実習Ⅰ(診断・治療実習)	1後		2					○		1	1						共同
		がん看護学実習Ⅱ(役割開発実習)	1後		2					○		1	1						共同
		がん看護学実習Ⅲ(高度実践実習:がん薬物療法看護)	2通		2					○		1	1						オムニバス、共同(一部)
		がん看護学実習Ⅳ(高度実践実習:緩和ケア)	2通		3					○		1	1						共同
小計(12科目)	—	—	0	26	0		—			2	1	0	0	0	0	19			
精	精神看護学特論Ⅰ(歴史と法制度)	1前		2			○			1		1						共同	
	精神看護学特論Ⅱ(心身のアセスメント)	1前		2			○			1		1						共同	
	精神看護学特論Ⅲ(精神科の治療技法)	1前		2			○			1		1				1	オムニバス、共同(一部)		

神看護学分野科目	精神看護学特論Ⅳ（看護理論と援助技法）	1後		2		○			1	1					共同
	精神看護学特論Ⅴ（リエゾン精神看護）	1後		2		○			1	1			1	オムニバス、共同（一部）	
	精神看護学演習Ⅰ（フィールドワーク）	1後		2					1	1	1			共同	
	精神看護学演習Ⅱ（援助技法に関する演習）	2前		2			○		1	1	1		1	オムニバス、共同（一部）	
	精神看護学実習Ⅰ（高度実践/直接ケア）	2通		6				○	1	1	1			共同	
	精神看護学実習Ⅱ（高度実践/CNSの役割）	2通		2				○	1	1	1			共同	
	精神看護学実習Ⅲ（高度実践/リエゾン精神看護）	2通		2				○	1	1	1			共同	
小計（10科目）	—	—	0	24	0	—	—	1	1	1	0	2			
広域看護学領域科目	学分野科目 公衆衛生看護	公衆衛生看護学特論Ⅰ	1前		2		○		1		1			オムニバス、共同（一部）	
		公衆衛生看護学特論Ⅱ	1前		2		○		1		1			オムニバス方式	
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	1後		2			○	1		1			オムニバス方式	
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	1後		2			○	1		2			オムニバス、共同（一部）	
小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	1		2					
国際看護学分野科目	国際看護学	国際看護学特論Ⅰ	1前		2		○		1					オムニバス方式	
		国際看護学特論Ⅱ	1後		2		○		1						
		国際看護学演習Ⅰ	2前		2			○	1						
		国際看護学演習Ⅱ	2通		2			○	1						
小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	1				1			
研究科目	研究	特別研究Ⅰ	1後		2		○		6	4	4				
		特別研究Ⅱ	2通		6		○		6	4	4				
		課題研究	1～2通		4		○		3	2	1				
		小計（3科目）	—	—	0	12	0	—	—	6	4	4	0	0	0
合計（63科目）			—	—	60	80	0	—	6	4	4	1	0	59	
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
<p>【研究コース】</p> 必修科目6単位[共通基礎科目3科目]、選択必修科目20単位[共通基礎科目4単位（看護研究方法論Ⅰ・医療データサイエンス特論、異文化看護特論）、所属する分野の専門科目8単位（特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ（こども看護学は演習Ⅱにかえて演習Ⅲ）、研究科目8単位（特別研究Ⅰ・Ⅱ）]、選択科目4単位[共通基礎科目6科目から選択]の合計30単位以上修得し、修士論文審査及び最終試験に合格した者。 <p>【高度実践看護師コース】</p> 必修科目6単位[共通基礎科目3科目]、選択必修科目36単位[共通基礎科目8単位（看護倫理特論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学）、所属する分野の専門科目24単位（がん看護学分野はがん看護学演習Ⅱを除く）・研究科目4単位（課題研究）]、選択科目2単位[共通基礎科目5科目から選択]の合計44単位以上修得し、課題研究審査及び最終試験に合格した者。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業の標準時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻(修士課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通基礎科目	看護理論特論		看護実践の基盤となる看護諸理論の諸理論を学習する。具体的には、看護理論の定義・構成要素・役割と機能、看護理論の歴史的変遷、大理論・中範囲理論・小範囲理論の代表的理論について、理論構築の目的と評価、看護理論と実践・教育・研究の関係について学ぶ。	
	看護倫理特論		看護職が活動する場において生じる倫理的問題や価値の対立に対し、関係者が倫理的調整を行うための基本となる知識と方法論を学修する。倫理的ジレンマに対する看護職としての感受性を高め倫理的問題を解決する能力を身に着けるとともに、対象者の権利擁護の方法を学ぶ。	
	看護研究方法論Ⅰ		看護学の研究の意義と役割、基本的な研究方法、研究プロセスを学修する。看護現象の説明及び看護実践における研究のための具体的な研究方法を、research question の設定から研究計画書の作成までのプロセスを通して学修する。	
	看護研究方法論Ⅱ		看護学における量的研究を読み解き、クリティークする手法を学修する。さらに、看護に関連するデータを用いて統計学的解析手法を学修する。	
	医療データサイエンス特論		(概要) 臨床研究のデザイン、解析方法の基礎を理解した上で、統計解析ソフトウェアを用いてデータ解析を行い適切な解釈を行う。加えて、医療データサイエンス分野の最新手法の概要とその適用場面を学ぶ。 (17 田栗 正隆/6回) 医療データサイエンス概論、統計学入門、連続データの解析、連続データの解析演習、2値データの解析 回帰分析、2値データの解析 回帰分析演習 (64 原田和治・65 折原 準一郎/2回) 医療分野におけるデータサイエンスの活用1・2	オムニバス方式 共同(一部)
	コンサルテーション特論		(概要) 保健・医療・福祉の場において、看護職を含むケア提供者やケアの受け手が抱える実践的な問題を解決するためのコンサルテーションの概念や関係構築過程を含むコンサルテーション技法を学習する。学習過程において、実務家のコンサルテーション事例を取り入れ、実装性の高い実践計画方法を学習する。 (16 浅香 えみ子/5回) コンサルテーションの概念、コンサルテーションのタイプとモデル、コンサルテーションにおける援助関係、コンサルテーションの展開、まとめ (40 松岡 裕美・16 浅香 えみ子/2回) 看護におけるコンサルテーション①・② (39 渡辺 純一/2回) コンサルテーションの援助技法①・② (41 藤野 智子/2回) コンサルテーションの実際① (40 松岡 裕美/2回) コンサルテーションの実際② (42 松元 智恵子/2回) コンサルテーションの実際③	オムニバス方式 共同(一部)
	看護教育特論		看護学教育の特徴、特に生涯教育・継続教育の意味や看護師が持つ教育的機能を理解するとともに、看護師育成を支援するための理論や技術、学習者中心の研修プログラムの作成から評価、教育効果を臨床実践につなげるための教育環境づくりや組織的教育活動など将来高度実践看護師として、あるいは看護教育・研究者としての役割を果たすために不可欠な教育の原理と技能を学ぶ。	
	看護マネジメント特論		高度看護実践を組織機能として効果・効率的に発揮するために安全管理を含む質保証と組織マネジメントを活用する知識を学修する。この実践に向け多職種及び地域との協働・調整機能を活用するための学習をする。組織管理者との協働に向け、管理問題の解決過程に必要な視点と知見を学習する。	

	異文化看護特論	多文化共生社会において看護に必要な文化的ケア能力について医療・看護と文化のかかわりから学修し、文化や民族と健康格差の関係を理解する。また、学修を通じて多文化共生社会における看護の役割を熟考する。	
共通基礎科目	フィジカルアセスメント	<p>(概要) 複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>(1 阿部 幸恵・33 原田 芳巳/20回) 頭部と頸部の臨床看護判断①・②、胸部・肺の臨床看護判断①・②、心血管系の臨床看護判断①・②、腹部の臨床看護判断①・②(消化管)、腹部の臨床看護判断④・⑤(腎・泌尿器)、直腸、肛門、前立腺の臨床看護判断①・②、筋骨格系の臨床看護判断①・②、神経系：精神状態像と行動の臨床看護判断①・②、神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射の臨床看護判断①・②、老年期にある患者の臨床看護判断①・②</p> <p>(1 阿部 幸恵/10回) 頭部と頸部の臨床看護判断③、胸部・肺の臨床看護判断③、心血管系の臨床看護判断③、腹部の臨床看護判断③(消化管)、腹部の臨床看護判断⑥(腎・泌尿器)、直腸、肛門、前立腺の臨床看護判断③、筋骨格系の臨床看護判断③、神経系：精神状態像と行動の臨床看護判断③、神経系：脳神経、運動系、感覚系、反射の臨床看護判断③、老年期にある患者の臨床看護判断③</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	臨床薬理学	<p>(概要) 薬剤の人体における作用機序と体内動態等の基礎知識に基づき、緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識・技術を学修する。</p> <p>(43 名和 幹朗/3回) 薬物動態と薬物相互作用、薬物の適正使用と管理、循環器系疾患治療薬</p> <p>(18 金藏 孝介/3回) 呼吸器系疾患治療薬、消化器系疾患治療薬、内分泌・代謝疾患治療薬</p> <p>(44 鈴木 宏昌/3回) 感染症治療薬、悪性腫瘍治療薬、薬物療法へのアドヒアランスを高める患者教育</p> <p>(45 草苺 伸也/2回) 免疫・炎症・アレルギー疾患治療薬、血液製剤/電解質・輸液/栄養剤等</p> <p>(46 橋本 祐一/2回) 精神・神経疾患治療薬、救急医療における薬物療法</p> <p>(2 小室 佳文・3 平井 和恵・5 小林 信/2回) 事例検討1・2</p>	オムニバス方式 共同(一部)

共通基礎科目	病態生理学	<p>(概要) 臨床現場でよく遭遇する主要な疾病の病態を理解し、対象の状態を的確に判断する力を養う。代表的な症候を呈する事例を通して、症候をきたす病態とメカニズム、推測される経過を理解し、最適な看護を提供するための臨床看護判断・初期対応について学ぶ。</p> <p>(19 林 由起子/4回) 病態生理学概論、画像読影の基本、脳神経疾患①(主な脳血管疾患)、脳神経疾患②(主な神経疾患)、加齢(老化)に伴う機能低下(ロコモティブシンドローム、感覚器)</p> <p>(66 華藤 恵美/2回) 循環器疾患①(心不全)、循環器疾患②(虚血性心疾患、不整脈)</p> <p>(34 内田 敬子/2回) 腎疾患(腎不全)、呼吸器疾患①(呼吸不全)</p> <p>(20 大平 達夫・1回) 呼吸器疾患②(肺がん)</p> <p>(48 森瀬 貴之・1回) 消化器疾患①(主な上部・下部消化管疾患)</p> <p>(47 竹内 啓人・1回) 消化器疾患②(主な肝胆膵疾患)</p> <p>(21 庄田 宏文・1回) 免疫疾患(膠原病)</p> <p>(35 岡本 伊作・1回) 頭頸部疾患(舌・咽頭・喉頭がん)</p> <p>(19 林 由起子・66 華藤 恵美・34 内田 敬子・3 平井 和恵・10 小林 万里子/2回) 全体討議① 病態生理学の知識を活用した臨床看護判断と初期対応</p>	オムニバス方式 共同(一部)	
基礎看護学領域科目	基礎看護学分野科目	基礎看護学特論 I	看護学の主要概念について、看護理論に基づいて捉え直すとともに、看護技術の本質・構造への理解を深め、看護技術の意味や価値を検討する。さらに、看護技術教育における指導過程に焦点を当てて、指導計画、実施、評価に関する理論を学習し、様々な対象への効果的な看護技術教育のあり方を探求する。	共同
		基礎看護学特論 II	臨床判断モデル・看護過程の基盤となる考え方や理論を学び、事例を通して、思考過程と言語化を強化するとともに、実践力の基盤となる思考過程の臨地での指導方法について探求する。	共同
		基礎看護学演習 I	基礎看護学・看護教育学に関連した国内外の研究の動向と批判的検討を行い、現在の課題とこれからの展望を考察する。また、基礎看護学・看護教育学に関連する文献検索および対象とした文献のクリティークを行い、課題を選定する。	共同
		基礎看護学演習 II	臨床実践を踏まえて基礎看護学領域の課題を選定し、これまでに学修した理論・概念や文献検討を踏まえて研究方法を明確化する。	共同
こども・女性看護学領域	こども看護学分野科目	こども看護学特論 I (発達理論)	<p>(概要) こどもの成長発達に関連する理論を学び多様な視点からこどもを理解するとともに、こどもと家族に対する理論を用いた看護実践のあり方について探求する。</p> <p>(2 小室 佳文・12回) オリエンテーション、成長発達の概要、実践と理論1・2、主要な理論1~3、関係性の発達1~3、あそびの発達、看護実践への理論の活用1・5</p> <p>(2 小室 佳文・8 藤沼 小智子/3回) 共同 看護実践への理論の活用2~4</p>	オムニバス方式 共同(一部)
		こども看護学特論 II (健康の維持・増進、回復)	こどもおよび家族の健康の維持・促進、回復に関する理論および概念からこどもを理解するとともに、看護実践のあり方を探求する。	

こども・女性看護学領域 こども看護学分野科目	こども看護学特論Ⅲ (看護実践と倫理)	(概要) 医療を必要とするこどもへの意図的な介入方法の基礎となる知識、技術、こどもに生じやすい倫理的課題を理解するとともに、こどもと家族に最適な介入技術を開発しスタッフとともに実践する教育的活動を探求する。 (2 小室 佳文・13回) オリエンテーション、高度実践看護、倫理的課題1~3、こどもを尊重するケア1・2、こどもと家族中心のケア1・2、看護技術の検証と開発、教育的活動1~4 (2 小室 佳文・8 藤沼 小智子/2回) 共同 プレパレーション1・2	オムニバス方式 共同 (一部)
	こども看護学特論Ⅳ (制度・政策、調整・協働)	(概要) こどもに関わる保健・医療・福祉・教育の各制度と政策の現状と課題を理解する。また、コンサルテーション(相談)・コーディネーション(調整)の技術を学び、多職種や他機関と協働しながら課題をとらえ解決する能力を養う。 (2 小室 佳文・13回) こどもの健康問題と制度、医療・診療報酬制度、医療・診療報酬制度、小児保健制度、児童福祉制度、教育制度、行政機関、こどもを取り巻く関連職種の背景と役割 相談・調整3・4、多職種・他機関との連携、調整1・2 (2 小室 佳文・49 宗川 一慶/2回) 相談・調整1・2	オムニバス方式 共同 (一部)
	こども看護学演習Ⅰ (包括的アセスメント)	(概要) こどものフィジカルアセスメント、発達のアセスメント、環境のアセスメントに関する知識と技術を修得し、こどもの健康を維持・増進する看護の役割を考察する。 (2 小室 佳文・10回) オリエンテーション、こどもの成長評価1~3、発達のアセスメント1~3、プライマリケアニーズのアセスメント1・2、包括アセスメント1 (2 小室 佳文・8 藤沼 小智子/16回) 共同 包括アセスメント2~7・フィジカルアセスメント1~9、こどもの成長発達評価8 (67 西端 みどり・68 西袋 麻理亜・50 川崎 健太 4回) こどもの成長発達評価4~7 フィールドワーク	オムニバス方式 共同 (一部)
	こども看護学演習Ⅱ (病態生理・診断・治療)	(概要) こどもの代表的な健康問題について、病態生理・検査法と解釈・診断・治療に至るプロセス、および治療法、症状マネジメントの理解を深め高度な看護実践への応用を検討する。 (2 小室 佳文・8 藤沼 小智子・10回) 神経・感染症・免疫・遺伝性疾患、染色体異常・消化器・循環器・アレルギー・腎・泌尿器・運動器 治療的介入プロセス・事例分析の報告と高度実践看護の検討、高度実践看護師としての役割と能力 (22 山中 岳・2回) 小児の神経疾患(1) 講義、神経フィールドワーク (72 渡邊 由祐・2回) 小児の神経疾患(2) 講義、運動器フィールドワーク (37 柏木 保代・2回) 小児の感染症講義、感染症フィールドワーク (36 山崎 崇志・3回) 先天性免疫不全症講義・小児の関節炎講義・免疫フィールドワーク (51 奥野 博庸・2回) 遺伝性疾患・染色体異常講義・フィールドワーク (70 堤 範音・3回) 小児の消化器疾患講義、小児の肝・胆・膵疾患講義、消化器フィールドワーク (69 奈良 昇之助・2回) 先天性心疾患講義、循環器フィールドワーク (73 赤松 信子・2回) 小児のアレルギー疾患講義、アレルギーフィールドワーク (71 大野 幸子・1回)	オムニバス方式 共同 (一部)

子ども・女性看護学領域	子ども看護学分野科目		小児の血管炎症候群講義 (37 柏木 保代・71 大野 幸子・1回) 腎・泌尿器フィールドワーク		
		子ども看護学演習Ⅲ (多様な健康状態と生活の場)		(概要) 様々な健康状態、様々な生活の場にある子どもと家族の実際を理解し、子どもと家族が必要としている看護実践のあり方や課題を改善するための看護の役割を考察する。 (2 小室 佳文・24回) オリエンテーション、フィールドワーク計画、フィールドワーク(急性期)、(慢性期)、(移行期)、(在宅療養) (2 小室 佳文・8 藤沼 小智子 6回) フィールドワークにおける学びの整理(急性期、慢性期)・(移行期、在宅療養)、様々な状況にある子どもと家族1~3、援助方法と実践上の課題	オムニバス方式 共同(一部)
		子ども看護学実習Ⅰ (診断・治療)		子どもの代表的な疾患の症状の査定、診断や治療の過程を理解し、医師などとの調整を必要とする看護援助を高度実践看護師の視点で検討し実践につなげる能力を養う。	共同
		子ども看護学実習Ⅱ (高度実践/プライマリアケア)		あらゆる健康レベルにある子どもと家族に対する高度実践看護師の役割と機能を理解し、プライマリアケアニーズを持つ子どもの健康の維持・増進にむけた健康教育や生活指導を行う能力を修得する。また、重度の症状を有する子どもの初期対応や家庭で生活する複雑な健康状態にある子どもに対するケアの能力を修得する。	共同
		子ども看護学実習Ⅲ (高度実践)		複雑なニーズをもつ子どもと家族のケアを通して、包括的なケアを提供するための職種間のコーディネーション(調整)やコンサルテーション(相談)の技術、倫理的調整や教育的支援に必要な技術を修得する。	共同
子ども・女性看護学領域	ウィメンズヘルス看護学分野科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ		女性の健康に関する諸問題について、生物学的、心理社会・文化的視野から広く捉え、環境的要因、政治・経済的要因などの影響も含めて女性の抱える健康課題を明らかにする。また、ウィメンズヘルスケアの実践に用いられる主要な概念・理論を学修する。	共同
		ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ		ウィメンズヘルスケアとevidence based health careについて、女性の健康支援の実際を通して学修する。また、生涯にわたる女性の健康支援のための保健医療サービスと政策、法律を理解する。特別に支援を必要とする女性並びに家族に対する看護支援を考察できる。	共同
		ウィメンズヘルス看護学演習Ⅰ		女性のライフサイクルにおける健康問題を明らかにする。国内外の文献調査、フィールドワークによる演習を通して理論的検討を行い、多面的な視野からアプローチができることを目指す。	共同
		ウィメンズヘルス看護学演習Ⅱ		女性の健康支援に関する現状と問題の分析から研究課題を見出し検討する。	共同
療養支援看護学領域科目	がん看護学分野科目	がん看護学特論Ⅰ (がん看護学理論)		(概要) がん看護における対象理解と援助の基盤となる主要な理論や概念について学び、がん看護実践および研究への適用について考察する。 (3 平井 和恵/9回) 危機理論の理解と活用①・②・③、悲嘆と喪失の概念の理解と活用、自己効力の概念の理解と活用、セルフケア、セルフマネジメントに関する概念、理論の理解と活用①・②、スピリチュアルケアに関する理論の理解と活用①・② (10 小林 万里子/5回) 自己概念、ボディイメージの概念の理解と活用、ストレス・コーピング理論の理解と活用①・②、不確かさの概念の理解と活用①・② (5 鈴木 良美・1回) ヘルスプロモーションに関する理論の理解と活用	オムニバス方式

療養支援看護学領域科目	がん看護学分野科目	がん看護学特論Ⅱ (がん看護学援助論)	<p>(概要) がんサバイバーシップに関する理解を踏まえ、がんの経過の中で患者・家族が直面する課題を探究し、複雑な健康問題に対して包括的な高度看護実践を提供するための看護援助方法について学ぶ。</p> <p>(3 平井 和恵/8回) がんサバイバーシップ、がん患者のトータルペイン、緩和ケアと看護、がん治療を受ける患者の特徴・アセスメントと看護②がん薬物療法、症状マネジメントを要する患者の特徴・アセスメントと看護、エンドオブライフケア期にある患者の特徴・アセスメントと看護、がん患者の家族の特徴・アセスメントと看護、がん患者・家族の意思決定の特徴・課題と看護、がん体験者への長期的支援</p> <p>(10 小林 万里子/5回) がん治療を受ける患者の特徴、アセスメントと看護①手術療法・③放射線療法、各発達段階におけるがん患者の特徴と課題、がんリハビリテーションを要する患者の特徴・アセスメントと看護、がん医療における倫理的課題と看護</p> <p>(53 池田 良輔子・1回) 在宅がん患者・家族の特徴・アセスメントと看護</p> <p>(52 川島 美由紀・1回) がん体験者への長期的支援</p>	オムニバス方式
		がん看護学特論Ⅲ (がんの病態と診断治療)	<p>(概要) がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学を学ぶ。診断に必要な検査、各治療法の特徴を踏まえ、主要ながんの病態生理と診断・治療について学ぶ。がん看護専門看護師としての的確な臨床判断、看護実践の基盤となる力を修得する。</p> <p>(3 平井 和恵・10 小林 万里子・1回) がんの疫学、がん対策の動向</p> <p>(24 黒田 雅彦・1回) 臨床腫瘍学概論</p> <p>(25 倉田 厚・1回) 臨床腫瘍学概論</p> <p>(26 高梨 正勝・1回) 臨床腫瘍学概論</p> <p>(54 三上 隆二・1回) 主要ながん治療法</p> <p>(29 吉村 明修/2回) 主要ながん治療法、がんの緊急病態 (オンコロジック・イマージェンシー)</p> <p>(23 祖父尼 淳/2回) 主要ながん治療法、</p> <p>(55 大野 慎一郎・1回) 主要ながん治療法</p> <p>(30 真村 瑞子・1回) 主要ながんの病態と診断・治療</p> <p>(32 福澤 誠克・1回) 主要ながんの病態と診断・治療</p> <p>(26 山田 公人・1回) 主要ながんの病態と診断・治療</p> <p>(27 杉本 勝俊・23 祖父尼 淳・1回) 主要ながんの病態と診断・治療</p> <p>(31 伊藤 良和・1回) 主要ながんの病態と診断・治療</p> <p>(74 岩田 愛雄・1回) サイコオンコロジー</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

療養支援看護学領域科目	がん看護学分野科目	がん看護学特論Ⅳ (がん薬物療法看護)	<p>(概要) がん薬物療法に関する医学的知識に基づき、安全で確実な治療管理、有害事象および緊急病態の予防と早期発見・対処、その過程における臨床判断と援助に必要な知識・技術を学ぶ。また、がん薬物療法の継続を支えるセルフケアへの援助、QOLの維持・向上への援助に必要な知識・技術を学ぶ。さらに、がん看護専門看護師の役割の実際を学び、がん薬物療法において果たすべき役割を探究する。</p> <p>(3 平井 和恵/10回) がん薬物療法看護概論、がん薬物療法の管理、がん薬物療法における緊急病態、がん薬物療法における有害事象</p> <p>(23 祖父尼 淳/2回) がん薬物療法看護概論、高齢者、複雑な問題を抱える事例</p> <p>(3 平井 和恵・10 小林 万里子/2回) 外来がん薬物療法の課題と看護、在宅がん薬物療法の課題と看護</p> <p>(56 市川 智里・1回) がん看護専門看護師の役割</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
		がん看護学特論Ⅴ (緩和ケア)	<p>(概要) がん患者の抱える身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛について学ぶ。また、エビデンスに基づき薬物療法・非薬物療法の双方から、ケアとキュアを統合した包括的な介入に必要な知識・技術を学ぶ。さらに、がん看護専門看護師の役割の実際を学び、緩和ケアにおいて果たすべき役割を探究する。</p> <p>(3 平井 和恵/7回) がん患者の身体的苦痛、緩和ケアにおける補完代替療法、がん患者の身体的、精神的苦痛の緩和、がん患者のスピリチュアルペイン、鎮静</p> <p>(74 岩田 愛雄・1回) がん患者の精神的苦痛</p> <p>(10 小林 万里子/3回) がん患者のリハビリテーション</p> <p>(57 鈴木 豊・1回) がん患者の社会的苦痛への支援</p> <p>(53 池田 良輔子・1回) 在宅で療養する終末期患者・家族への看護</p> <p>(23 祖父尼 淳・1回) 複雑な問題を抱える事例に対する緩和ケア</p> <p>(58 黒澤 亮子・1回) 緩和ケアにおけるチーム医療とがん看護専門看護師の役割</p>	オムニバス方式
		がん看護学演習Ⅰ (エビデンス検索と活用)	<p>(概要) がん看護領域(高度実践看護師コースは、がん薬物療法看護、緩和ケア領域)における自身の関心テーマについて、文献検討を通して研究の現状と課題を明らかにし、今後探究すべき方向性を考察する。また、がん薬物療法の継続と生活の質向上のための症状マネジメント、終末期における苦痛な症状のマネジメントにおいてエビデンスを活用し、キュアとケアを統合した介入プロトコルを作成する力を養う。</p> <p>(3 平井 和恵・10 小林 万里子/28回) 自身の関心テーマに関する研究の現状と課題、探究の方向性、がん看護とEBN、がん薬物療法における有害事象の症状マネジメント、終末期における苦痛な症状のマネジメント、まとめ</p> <p>(3 平井 和恵/2回) がん看護における研究の優先性、自身の関心テーマに関する研究の現状と課題、探究の方向性</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
		がん看護学演習Ⅱ (フィールドワーク)	がん看護学領域における自身の関心テーマについて、関連する場におけるフィールドワークを通して、様々な角度から現状の理解を深める。さらに、フィールドワークでの成果、文献検討とを統合的に考察し、研究課題を明確化する。	共同

がん看護学分野科目	がん看護学演習Ⅲ (がん看護実践)	(概要) がん薬物療法を受ける患者、緩和ケアを必要とする患者への看護の実践に必要な知識・技術を、学内演習または臨地での学外演習を通して習得する。また、がん薬物療法看護、緩和ケアに関する自身の関心に基づくフィールドワーク計画を臨地で実践し、理解を深める。 (60 小林直子・2回) がん看護におけるコミュニケーションスキル (3 平井和恵・10 小林万里子/12回) がん看護におけるコミュニケーションスキル、患者のセルフマネジメントを促す患者教育、がん薬物療法における職業性曝露対策のためのシステム整備、院内教育 (59 福田彩子・2回) がん看護における補完代替療法 (3 平井和恵・10 小林万里子・52 川島美由紀/14回) IASMを用いた症状マネジメントの実践、緩和ケアチームへの参加観察	オムニバス方式 共同 (一部)
	がん看護学実習Ⅰ (診断・治療)	がん専門医による、がんの診断や苦痛症状の診断、治療計画、有害事象を含めた身体管理、治療効果の評価における臨床判断を学ぶ。そのプロセスに必要な知識・技術を習得し、高度看護実践への応用を考察する。	共同
	がん看護学実習Ⅱ (役割開発)	がん看護専門看護師が果たす実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究に関する役割の実際を学ぶ。さらに、自身のサブスペシャリティを見据え、がん看護専門看護師として役割を發揮するために求められる自己の課題を考察する。	共同
	がん看護学実習Ⅲ (高度実践実習：がん薬物療法看護)	治療期・再発期にあり、複雑で対応が難しい問題を抱えたがん薬物療法患者・家族に対して、これまでに学修した専門的知識、臨床判断を用いた包括的アセスメントに基づき、質の高い看護を実践する能力を養う。また、この過程で行われる地域連携の実際、がん看護専門看護師が果たす役割を理解する。さらに、がん看護専門看護師の役割の一部(相談・調整・教育)を自立して行える能力を養う。	共同
	がん看護学実習Ⅳ (高度実践実習：緩和ケア)	再発期・終末期にあり、複雑な問題を抱え苦痛症状を有するがん患者・家族に対して、これまでに学修した専門的知識、臨床判断を用いた包括的アセスメントに基づき、質の高い看護を実践する能力を養う。また、この過程で行われる地域連携の実際、がん看護専門看護師が果たす役割を理解する。さらに、がん看護専門看護師の役割の一部(相談・調整・倫理調整)を自立して行える能力を養う。	共同
精神看護学分野科目	精神看護学特論Ⅰ (歴史と法制度)	歴史・法制度に関する科目 精神保健医療福祉の歴史の変遷と法律・制度の動向、看護師に求められる役割と今後の展望について学習する。	共同
	精神看護学特論Ⅱ (心身のアセスメント)	精神・身体状態の評価に関する科目 バイオ・サイコ・ソーシャルの視点、および精神力動的な視点から精神の健康状態をアセスメントする理論と技術について学習する。	共同
	精神看護学特論Ⅲ (精神科の治療技法)	(概要) 精神科治療技法に関する科目 力動精神医学、認知行動療法、家族療法など、精神科の治療技法に関する理論と技法とその中での看護師の役割を学習する。 (4 小林 信・37 榎屋 二郎/8回) 精神科における診断と治療の基礎的理解、薬物療法の適応と薬理作用の理解 ①・②、電気けいれん療法の理解、アルコール依存症治療の理解 (4 小林 信・38 榎屋 二郎、61 則村 良/4回) 薬物療法の適応と薬理作用の理解①・② (4 小林 信・12 堀川 英起/7回) 力動精神医学の理解、認知行動療法の理解、精神科における家族療法の実際、精神科における治療の課題と展望	オムニバス方式 共同 (一部)
	精神看護学特論Ⅳ (看護理論と援助技法)	精神看護理論・援助技法に関する科目 精神看護における患者-看護師関係の相互作用に注目し、対人関係論を中心に自己を活用した治療的援助関係を学習する。	共同

療養支援看護学領域科目	精神看護学分野科目	精神看護学特論Ⅴ (リエゾン精神看護)	(概要) リエゾン精神看護学 総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割、機能および実践とは何かを学習する。 (4 小林 信・62 武蔵 真希/7回) リエゾン精神看護の目的と位置づけ、看護師のメンタルヘルス支援、コンサルテーションの対象と技法、事例検討 (4 小林 信・12 堀川 英起/8回) 身体疾患をもつ患者への精神的支援①・②、せん妄、抑うつ、不安、直接ケアの対象と技法	オムニバス方式 共同 (一部)
		精神看護学演習Ⅰ (フィールドワーク)	精神科治療技法に関する科目 作業療法、認知行動療法、SST、音楽療法などの治療プログラムに参加し、その理論と看護師の役割、多職種者との連携のあり方を学習する。	共同
		精神看護学演習Ⅱ (援助技法に関する演習)	(概要) 精神看護理論・援助技法に関する科目 ストレス・コーピングおよび危機介入、アングラー・マネジメントなどについて、グループワークやロールプレイングを行い、その理論と看護師の役割、多職種者との連携のあり方を学習する。 (4 小林 信・12 堀川 英起・15 寺田美樹・61 則村 良/4回) Mental Status Examination①～④	オムニバス方式 共同 (一部)
		精神看護学実習Ⅰ (高度実践/直接ケア)	実習科目 (直接ケア) 入院中の対応困難患者およびその家族に対して、エビデンスに基づく看護アセスメントと高度な看護実践を行うために必要な知識と技術について実習する。	共同
		精神看護学実習Ⅱ (高度実践/CNSの役割)	実習科目 (精神科病院におけるCNSの役割) 精神科病院における精神専門看護師の役割、機能および実践とは何か、専門看護師指導に求められる看護技術について実習する。	共同
		精神看護学実習Ⅲ (高度実践/リエゾン精神看護)	実習科目 (リエゾン精神看護) 総合病院におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割、機能および実践とは何かをリエゾン・ナースに求められる看護技術について実習する。	共同
広域看護学領域	公衆衛生看護学分野	公衆衛生看護学特論Ⅰ	(概要) 公衆衛生看護学の対象である個人・家族・集団・コミュニティへの活動において用いられる主要な概念および理論について学修する。理論や概念の探究にあたり、その発展の背景、定義や内容、適用の状況、今後の活用可能性を含めて検討する。 (② 鈴木 良美/7回) オリエンテーション、公衆衛生看護学の定義と体系について、個人の健康行動に関する概念・理論、個人間レベルの健康行動、健康段階別健康行動に関する概念・理論、家族の理解のための概念・理論、個人・家族への支援方法、地域組織への支援・協働、集団 (グループ) に関する概念・理論、集団 (グループ) への支援方法 (14 山口 拓允/5回) 地域診断に関する概念・理論、地域診断の方法、GIS (地理情報システム) の方法、地域保健活動、社会変革のために用いられる概念・理論、地域づくりに関する概念・理論、地域組織に関わる概念・理論 (② 鈴木 良美・14 山口 拓允・1回) 地域診断の発表	オムニバス方式 共同 (一部)

広域看護学領域	公衆衛生看護学分野	公衆衛生看護学特論Ⅱ	<p>(概要) 公衆衛生看護学に適用可能な研究方法や研究成果に関して学修する。公衆衛生看護学における課題の選定方法や、質的・量的研究デザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法などの方法論について探求する。</p> <p>(② 鈴木 良美/8回) オリエンテーション、公衆衛生看護学の研究方法について、公衆衛生看護学研究の展開方法①②、質的調査方法の実際①～⑤</p> <p>(14 山口 拓允/7回) 公衆衛生看護研究の展開方法③、量的調査方法①～④、量的調査の実際①・②</p>	オムニバス方式
		公衆衛生看護学演習Ⅰ	<p>(概要) 公衆衛生看護学に関連した国内外の文献の批判的検討方法を学修する。文献検索および対象とした文献のクリティークを行い、公衆衛生看護学に関連する課題を選定し、複数の文献を統合しレビューする。</p> <p>(② 鈴木 良美/20回) オリエンテーション、文献のクリティークの方法、質的研究のクリティーク、文献レビューの方法①～③、文献レビュー①・②</p> <p>(14 山口 拓允/8回) 量的研究のクリティーク①～③</p> <p>(② 鈴木 良美・14 山口 拓允2回) 文献レビューの発表</p>	オムニバス方式
		公衆衛生看護学演習Ⅱ	<p>(概要) 公衆衛生看護学領域の課題を選定し、フィールドワークによってその健康課題をさらに探求する。関連する組織・地域でフィールドワークを行い、そこで得られたデータを分析し、これまでに学修した理論・概念の学修や文献検討を踏まえて研究課題および研究方法を明確化する。</p> <p>(② 鈴木 良美/26回) オリエンテーション、フィールドワークの計画立案、フィールドワークの実施</p> <p>(② 鈴木 良美・13新井 志穂・14 山口 拓允/4回) フィールドワークのまとめ及び研究課題と方法の明確化</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	国際看護学分野科目	国際看護学特論Ⅰ	<p>(概要) 現在の国際情勢や世界の人々の活動を基礎に、国際看護学と関連する国際保健における主要な概念、人々の健康に影響を及ぼす世界的な課題について学修する。また、課題に対する国際保健政策についても学修し、看護と看護職の役割について論じる。</p> <p>(2 成瀬 和子・14回) オリエンテーション、国際保健とは、健康の社会的決定因子、国際保健政策1・2、世界の保健医療システム、文化と健康、国際保健における課題1～5、異文化適応、多文化共生看護、在日外国人の医療と看護</p> <p>(63 杉下 智彦・1回) 国際保健における倫理的問題</p>	オムニバス方式
		国際看護学特論Ⅱ	国際保健や国際看護における研究についてこれらの分野の特性を踏まえながら基本的研究方法をどのように展開していくかのプロセスや方法を学び、研究上の困難に対処できる研究実践能力を身につける。	
		国際看護学演習Ⅰ	国際看護活動に必要な対象地域・社会のアセスメント方法と参加型活動計画立案のための手法について学修する。	
国際看護学演習Ⅱ		国際看護学領域の課題を選定し、フィールドワークでその実際を学修することで、自らの研究課題や研究方法を明確化する。		

<p style="text-align: center;">研究 科 目</p>	<p style="text-align: center;">特別研究 I</p>	<p>(概要) 研究課題の設定、方法、倫理的問題と対応、研究計画書の作成までのプロセスを学習し、研究倫理審査を受審する。</p> <p>(1 阿部 幸恵) 看護理論や患者教育、看護実践に資する看護技術や教育方法など基礎看護学領域で扱う課題に関する文献検討と学生の経験から生じている疑問や関心を交えて研究テーマと方法を明確化し、その課題に対して、倫理的な配慮をしながら研究計画の作成できるように指導する。</p> <p>(2 小室 佳文) 学生が関心のあることもと家族の看護について、臨床場面や文献クリティークのディスカッションによって課題を明確化する。また、研究倫理における要配慮者であることにも対する倫理的配慮を遂行できるよう指導する。</p> <p>(① 田村 知子) ウイメンズヘルスの視点をもとに文献検討と多様なデータから研究課題を明確化し、倫理的側面および適切な研究手法を検討しながら研究計画の立案に対する指導を行う。</p> <p>(3 平井 和恵) 様々な場、ライフステージにあるがん患者・家族が、がんと診断された時からエンドオブライフ期に直面する課題や体験に焦点を当て、臨床疑問から課題の明確化への深化、研究計画の立案を指導する。</p> <p>(4 小林 信) 今までの学生自身の経験から、精神看護および精神科看護に関する臨床疑問を明確化し、文献検討を通して研究テーマを抽出し、倫理的課題を踏まえながら疑問を明らかにするのに適した研究手法を指導する。</p> <p>(② 鈴木 良美) 学生自身の実践経験、文献検討、ディスカッションを基に学生が取り組みたい公衆衛生看護学領域の研究テーマと方法を明確化する。その課題に対して倫理的に配慮しながら研究計画が立案できるよう指導する。</p> <p>(6 成瀬 和子) 国際看護学における研究課題と対象、また対象へのアクセス方法とデータ収集、国際保健において考慮すべき倫理的課題を踏まえて研究計画書を作成する。海外フィールドで調査を行う場合は、当該国の研究倫理審査を受審するために、指定のプロトコールにそった英語の研究計画書の作成プロセスを学習し、研究計画書を完成する。</p> <p>(7 伊藤 綾子) 看護理論や患者教育、看護実践に資する看護技術や教育方法など基礎看護学領域で扱う課題に関する文献検討と学生の経験から生じている疑問や関心を交えて研究テーマと方法を明確化し、その課題に対して、倫理的な配慮をしながら研究計画が作成できるように主指導教員とともに指導する。</p> <p>(8 藤沼 小智子) 学生が関心のあることもと家族の看護について、臨床場面や文献クリティークのディスカッションによって課題を明確化する。また、研究倫理における要配慮者であることにも対する倫理的配慮を遂行できるよう、主指導教員とともに指導する。</p> <p>(10 小林 万里子) 様々な場、ライフステージにあるがん患者・家族が、がんと診断された時からエンドオブライフ期に直面する課題や体験に焦点を当て、臨床疑問から課題の明確化への深化、研究計画の立案を主指導教員とともに指導する。</p> <p>(11 原田 通予) ウイメンズヘルスの視点をもとに文献検討と多様なデータから研究課題を明確化し、倫理的側面および適切な研究手法を検討しながら研究計画の立案を主指導教員と共に指導する。</p> <p>(12 堀川 英起) 今までの学生自身の経験から、精神看護および精神科看護に関する臨床疑問を明確化し、文献検討を通して研究テーマを抽出し、倫理的課題を踏まえながら疑問を明らかにするのに適した研究手法を、主指導教員とともに指導する。</p> <p>(13 新井 志穂) 学生自身の実践経験、文献検討、ディスカッションを基に学生が取り組みたい公衆衛生看護学領域の研究テーマと方法を明確化する。その課題に対して倫理的に配慮しながら研究計画が立案できるよう、主指導教員とともに指導する。</p> <p>(14 山口 拓允) 学生自身のこれまでの活動に基づくクエスチョンをもとにしたリサーチクエスチョンを元に、文献検討、ディスカッションを通して公衆衛生看護学に関する研究目的の設定、研究テーマの確立ができるよう主指導教員とともに指導をする。</p>	
---	---	---	--

特別研究Ⅱ

(概要)

研究計画書に基づき、データ収集・分析を経て、研究課題の考察から結論を導くプロセスを学修し、研究論文を作成する。また、効果的なプレゼンテーションを実施する。

(1 阿部 幸恵)

特別研究Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究対象やデータ収集施設を選定し、得られたデータを分析・考察して基礎看護学に寄与できる論文作成の指導を行う。

(2 小室 佳文)

こどもの健康や育ちに関する研究テーマについて、研究対象者やこどもに関わる研究協力施設へのアプローチを経て、データ収集・分析、論文作成の過程から、こどもに還元できる研究の遂行を指導する。

(① 田村 知子)

特別研究Ⅰで明らかになった研究課題をもとに、研修対象、データ収集、分析方法を考察し、ウィメンズヘルスに寄与しうる研究論文の作成の指導を行う。

(3 平井 和恵)

研究計画に基づくデータ収集・分析を行い、がん患者・家族の体験の構造や意味を探究し、がん看護の質向上に寄与しうる論文作成を指導する。

(4 小林 信)

特別研究Ⅰで明らかになった研究テーマと研究方法をもとに、研究対象やデータ収集施設を選定し、得られたデータを分析・考察し、精神看護に寄与しうる論文の作成を指導する。

(② 鈴木 良美)

特別研究Ⅰで明確化した研究テーマをもとに、研究対象やデータ収集・分析を行い、結果・考察を検討・記述し、発表する過程を通じて、公衆衛生看護学に寄与しうる論文の作成を指導する。

(6 成瀬 和子)

研究のデータ収集プロセスにおける困難への対処法、計画の修正や変更など、国際看護の研究に特有の問題への対処方法を学修しつつ、期間内にデータ収集をおこなう能力を鍛える。そして、データ分析から結論までの一連の論文作成プロセスを研究課題に基づき論理的に展開する方法を学修する。さらに、研究結果を視覚化しわかりやすく提示する方法を習得する。

(7 伊藤 綾子)

特別研究Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究対象やデータ収集施設を選定し、得られたデータを分析・考察して基礎看護学に寄与できる論文作成の指導を主指導教員とともに指導する。

(8 藤沼 小智子)

こどもの健康や育ちに関する研究テーマについて、研究対象者やこどもに関わる研究協力施設へのアプローチを経て、データ収集・分析、論文作成の過程から、こどもに還元できる研究の遂行を、主指導教員とともに指導する。

(10 小林 万里子)

研究計画に基づくデータ収集・分析を行い、がん患者・家族の体験の構造や意味を探究し、がん看護の質向上に寄与しうる論文作成を主指導教員とともに指導する。

(11 原田 通予)

特別研究Ⅰで明らかになった研究課題をもとに、研修対象、データ収集、分析方法を考察し、ウィメンズヘルスに寄与しうる研究論文の作成を主指導教員とともに指導する。

(12 堀川 英起)

特別研究Ⅰで明らかになった研究テーマと研究方法をもとに、研究対象やデータ収集施設を選定し、得られたデータを分析・考察し、精神看護に寄与しうる論文の作成を、主指導教員とともに指導する。

(13 新井 志穂)

特別研究Ⅰで明確化した研究テーマをもとに、研究対象やデータ収集・分析を行い、結果・考察を検討・記述し、発表する過程を通じて、公衆衛生看護学に寄与しうる論文の作成を、主指導教員とともに指導する。

(14 山口 拓允)

特別研究Ⅰで設定した研究テーマに基づき、科学的妥当性・客観性に富んだ研究計画書の立案を行うよう指導するとともに、データ収集、解析、それに基づく考察を行い、公衆衛生看護学の発展に寄与し得る論文の作成を主指導教員とともに指導する。

<p>研究科目</p>	<p>課題研究</p>	<p>(概要) 看護実践経験とこれまでの学修や文献検討を統合して課題を明確にし、研究のプロセスに取り組み、高度実践看護師として実践に活用できる研究能力を養う。</p> <p>(2 小室 佳文) 看護実践経験から見出した研究疑問について、こどもに関する事例研究や調査研究によって看護実践への示唆が得られるよう指導する。</p> <p>(3 平井 和恵) 様々な場、ライフステージにあるがん患者・家族が、がんの診断からエンドオブライフ期に直面する課題や体験に焦点を当て、事例研究を含む研究手法を用いて探究し、論文作成することを指導する。</p> <p>(4 小林 信) 精神看護における直接的・間接的看護介入およびリエゾン精神看護に関する問題の中から関心のあるテーマを選定し、文献のクリティークをとおして、エビデンスに基づく看護実践を明らかにし論文としてまとめることを指導する。</p> <p>(8 藤沼 小智子) 看護実践経験から見出した研究疑問について、こどもに関する事例研究や調査研究によって看護実践への示唆が得られるよう、主指導教員とともに指導する。</p> <p>(10 小林 万里子) 様々な場、ライフステージにあるがん患者・家族が、がんの診断からエンドオブライフ期に直面する課題や体験に焦点を当て、事例研究を含む研究手法を用いて探究し、論文作成することを主指導教員とともに指導する。</p> <p>(12 堀川 英起) 精神看護における直接的・間接的看護介入およびリエゾン精神看護に関する問題の中から関心のあるテーマを選定し、文献のクリティークをとおして、エビデンスに基づく看護実践を明らかにし論文としてまとめることを、主指導教員とともに指導する。</p>	
-------------	-------------	---	--